

# キャリア教育だより

発行元：相模原市教育委員会キャリア教育推進チーム / 令和8年5月27日発行



5月21日(木)に、キャリア教育の理念や方向性、その推進などについて理解を深めることを目的として、第1回キャリア教育担当者会を開催しました。各学校のキャリア教育担当者が参加しました。

教育委員会から、まずはキャリア教育の理念について再確認をしました。本市のキャリア教育においては、『縦の接続』と『横の連携』に基づき、「つながる力」、「自律する力」、「乗り越える力」、「見通す力」の4つの力の育成をめざしています。

また、今年度の重点として

- ①キャリア教育の目的やめざす子ども像の再認識
  - ②アウトカム評価の継続とPDCAサイクルの質的向上
  - ③「横の連携」への意識の向上
- の3点について共通理解を図りました。

「横の連携」に関して、現在の市の状況と今後に向けた取組についてです。学校運営協議会では、中学校区の「めざす子ども像」を地域全体のビジョンとして共有することが大切です。

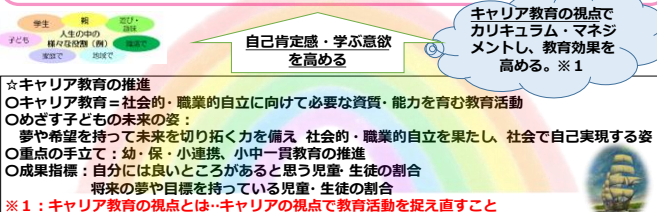
キャリア教育担当の先生が、学校運営協議会や地域との協働的な活動などの場面で、地域の方々とのつながりについて把握するとともに、めざす子ども像を共有できるように働きかけると、キャリア教育がより一層推進されるでしょう。

## キャリア教育担当者会資料より～一部抜粋～

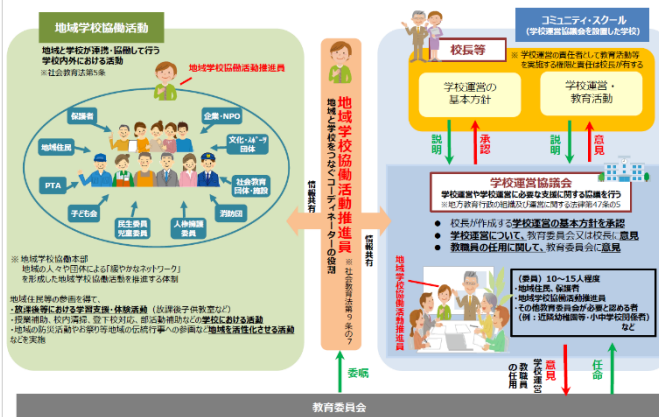
### 1 本市におけるキャリア教育の位置付け ～第2次 相模原市教育振興計画～

めざす人間像：共に認め合い 現在と未来を創る人

育成したい力：未来を切り拓く力  
「自分の役割を果たし、自分らしい生き方を実現するための力」



### コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進



研究協議は次のテーマに基づいて、各中学校区で行いました。

- ①令和7年度の中学校区の成果と課題を、令和8年度にどのように生かすことができるか
  - ②よりよいアウトカム評価を行い、PDCAサイクルをさらに効果的に回していくために、各中学校区でできること
- 各中学校区で、先生方の主体的な進行によってとても熱い議論が交わされました。担当者会の振り返りからは、協議したことを今後のキャリア教育に生かしたいという記載がたくさん見られました。2ページ目に一部抜粋を掲載します。

**担当者会の内容は、各学校・中学校区でもぜひ共有しましょう！**

## キャリア教育パンフレットをぜひご活用ください

相模原市内で行われているキャリア教育の取組をまとめた「相模原市キャリア教育パンフレット」を発行しました。ぜひご一読いただくとともに、保護者の皆様や地域の皆様への周知にもご活用ください。

※相模原市キャリア教育パンフレットは、市ホームページにも掲載しています。

[https://www.city.sagamihara.kanagawa.jp/\\_res/projects/default\\_project/\\_page\\_/001/021/181/pamphlet.pdf](https://www.city.sagamihara.kanagawa.jp/_res/projects/default_project/_page_/001/021/181/pamphlet.pdf)



## 【キャリア教育担当者会振り返りより抜粋】

・小学校・中学校の9年間を通して「つながる力」を育てていくために、中学校区として取り組めることを具体的に考えていくことが大切だと学びました。児童生徒が自分自身を振り返る機会をつくるために、どのような質問をしていくか精選していくことも必要だと感じました。また、児童生徒自身の評価を家庭とも共有し、児童生徒に関わる人達で成長を支えていくべきだと思いました。

・はじめの質問にあった、保護者の方に「キャリア教育とはなんですか」という質問に、自分もとまって考えてしまった。自己肯定感を高め、そして、中学校区で行っている活動だからできることは何か考えながら学ぶことができました。また、中学校区の先生方と令和7年度の中学校区の目指す子ども像が、小学校ごとに異なっていた現状があったので令和8年度をかけて、小中一貫の日や準備会を利用し、同じ子ども像となるよう、検討していくように話し合いを行いました。異動して自分の中学校区のキャリアについてしっかり学んでいながら前任校のキャリアも活かしつつ協力して行っていく。

・本校は、学校運営協議会にアウトカム評価を示していく段階には入っているが、子どもたちに投げかける質問の文言によっては、その結果に妥当性があるのかどうかという点を考えていくべきなのではないかと思いました。学校運営協議会の委員の皆さんからも意見をいただきながら、より妥当性・信頼性の高いデータの収集ができるように、生徒に投げかける質問の文言を校内で再考する取り組みを進めてみたいと思いました。

・昨年度「自分から『分からない、教えて』を発信する」とこと「自分の『強み』や『好き』に気づき、将来の夢に活かす」ということが中学校区の課題となっていました。今回の研修では既習事項を活かすということの中にも、ただ今まで学習したことを生かすだけでなく、今までの学習の流れ（学び方）を生かすこともできると知りました。協議の中では、強みを将来の夢に活かすというのは小中学校段階では難しいという話になったが、気付かせるということはしていきたいという共通認識ができた。

・キャリア教育とコミュニティ・スクールとの繋がりについてのご講話は、今年度コミュニティ・スクールを開設する本校にとって、非常に有意義なものになりました。開設準備を進める中で、子どもたち一人ひとりの成長に具体的にどうつながるかをイメージしていましたが、本日のお話と重なる部分があり、心強く感じました。後半の中学校区の協議においては、昨年度の実践と今年度の方向性を共有することができました。「足並みを揃えること」のみに捉われず、共通項を見出しながら互いの実践を尊重し合うという現在のアプローチこそが、各校の独自性を担保し、持続可能なキャリア教育を推進する鍵であると改めて感じました。

・相模原市の目指すキャリア教育の位置付けを再確認し、令和8年度の指針が自分の中で見出すことができました。縦と横の連携を基盤として昨年度の反省を元にPDCAサイクルを確立させることの大切さを理解できました。小学校があってこそその中学校でのキャリア教育であること、日々の学校生活の中でキャリアのメガネをかけて生徒の成長や課題を見つけてあげられるように努めたいです。コミュニティ・スクールについても、学校教育のみでキャリア教育の育成を目指すわけではないことを学びました。複雑化する社会に対応するためにも学校で育てる力、地域との連携によって育まれる力があることがわかりました。何事も「報・連・相」が大切であり、ビジョンを共有して全職員で生徒を認めてあげられる学校を目指していきたい。

・今回の研修を通して、データから「全体の傾向をつかむ」ことの大切さを学ぶと同時に、今後は「子どもたち一人ひとりに寄り添った、具体的なアプローチ」が必要であると実感しました。中学校区が掲げる目標「つながる力」をベースに、「乗り越える力」も身につけていけるようにしていきたいです。また、今年度は、より効果的にPDCAサイクルを回して歩を進めていくために、「キャリアパスポートの効果的な活用」について考えていきたいと思います。